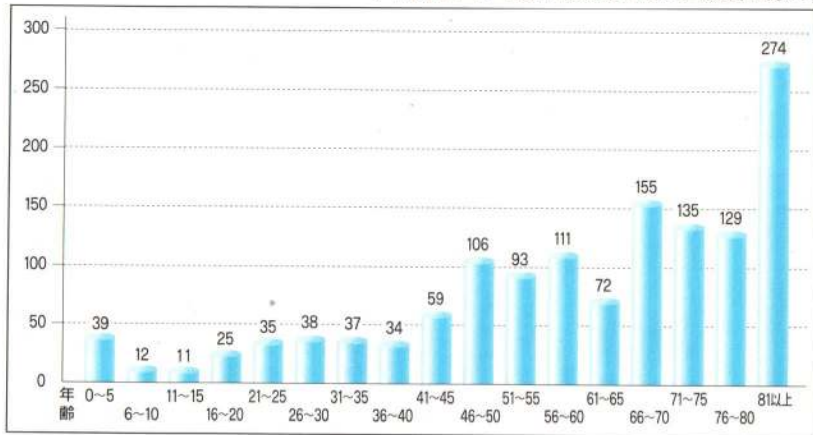


たしかめて 火を消してから次のこと。

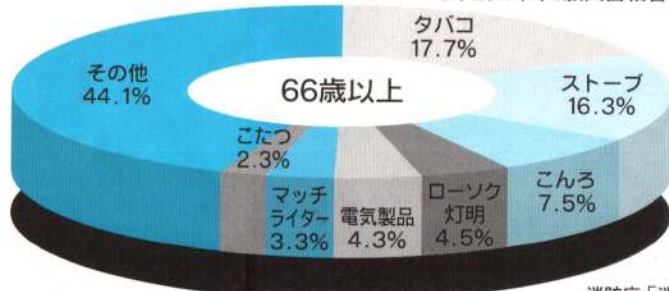
◎住宅火災の年齢別死者発生状況(全国)

(平成11年中、年齢不明者及び放火自殺者を除く)



◎66歳以上の住宅火災の発火原因別死者の割合(全国)

(平成11年中、放火自殺者を除く)



消防庁「消防白書」

高齢者の住宅火災が増えています

火災による死傷者は年齢が高くなるにしたがって増加しています。六十六歳以上の住宅火災による死傷者の原因は、たばこ、ストーブ、こんろが約四〇%を占めています。火災原因の大半は火の不始末や不注意です。いざというときに備え、風呂場やパケツなどに水のくみおきをしておきましょう。また、家庭に最低一本の消火器を備え、防災訓練などに参加して使用方法を身につけておくことも大切です。

火災から身を守る6つのポイント

①寝たばこは絶対にしない、させない。



②ストーブには燃えやすいものを近づけない。



③火をつけたままこんろのそばを離れない。



④プラグにほこりをためない。



⑤家のまわりに燃えやすいものを置かない。



⑥寝具、カーテン、衣類などは防災品を使用する。



夜間における

高齢者の交通事故多発!!

大館警察署管内で、1月から7月上旬までに交通事故死亡事故が5件発生。死者5人のうち4人が高齢者です。

高齢者の皆さん、夜間の外出、特に自転車での外出は控えましょう。どうしても外出しなければならぬときは、車からよく見える反射材を使用し、交通ルールを厳守しましょう。